

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶ 今月号の特集は「骨壊死の画像診断 up to date」です。ひとくちに骨壊死といっても、病変部位によって骨端の骨梗塞（狭義の骨壊死）や、骨髄組織・間質の骨髄壊死など違う病態をみており、注意が必要です。また、無血管性/虚血性壊死や無腐性壊死など様々に呼ばれており、さらに混乱を助長する原因ともなっています（堀内論文、平岡論文、大木論文）。これらに加えて、成長期の軟骨内骨化に異常が起こる骨端症の一部にも骨壊死が関与しています（齋藤論文、山本論文）。奥歯に物が挟まった言い方をしているのはなぜかという、骨端症すなわち骨壊死ではないからです。つまり、骨端症の一部には、外傷やストレスに関連しながらも骨壊死がない病態や、骨化の正常変異と呼べる病態生理も含まれているのです。ダメ押しで付け加えると、大人の疾患で薬剤関連顎骨壊死という病名はありますが、その本体は難治性骨髄炎です（田口論文）。まとめますと、骨壊死や骨端症の疾患概念は、実は統一されていないのが現状、ということです。画像的な骨髄浮腫を中心概念として、骨破壊、圧潰、造骨や炎症などをきたす様々な病態が含まれています。熟練の先生方による、一般的な知見の整理をしっかりと吸収してください。

▶ 診療論文では、子宮頸癌根治的放射線治療における腔晩期有害事象が、諸外国に比して我が国では少ない理由が考察されています（長崎論文）。また、コーンビーム CT よりも被曝量の少ない kV-X 線画像の位置照合用二次元画像 2 方向から再構成した、仮想 CT 画像の精度を検証する意欲的な研究の取り組みも示されています（若林論文）。

▶ 症例論文や「今月の症例」は今回も様々な領域にわたる豊富な寄稿がなされました。ありがたい限りです。術前診断可能であった化膿性子宮筋腫破裂（山中論文）、高分化乳頭状中皮腫瘍に合併した多嚢胞性腹膜中皮腫（雪本論文）、多発性化膿性関節炎と膿瘍の併発例（宮平論文）、腓骨性嚢胞門脈瘤（齋藤論文）、肝右葉 S8 に限局した Caroli 病（久保論文）や中性脂肪蓄積心筋血管症（橋本論文）といった、非常に教育的な症例の数々を追体験できます。

▶ 毎回、同じ思いを開陳して申し訳ございませんが、何度でも記します。投稿や症例を大切に『臨床放射線』は特異な編集方針をもつ稀有な雑誌であり、今後も皆様の活発なご投稿によって一緒に盛り立てていただければと切に願います。

森 壘

「臨床放射線」第 68 巻 第 8 号

2023 年 8 月 10 日発行（毎月 10 日発行）

定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 44,990 円（本体 40,900 円＋税 10%）

[年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 文京メディカル TEL 03 (3817) 8036

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。